

十人十色の、ミライを咲かせる

2022 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

2022 英語-①

- ・英作文以外では記述解答の問題がなくなり、問1のリスニング、問2の適語補充は易くなった。
- ・一方で、長文問題では英文の分量が増え、文法問題では新指導要領で高校から降りてきた仮定法がさっそく出題されるなど、全体としては昨年と比べやや難しくなった印象。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 リスニング	マークシート化の影響で、これまで出題されていた単語の記述問題がなくなり、代わりに6択など択の多い選択肢問題が増えた。だが、全体として易しく、選択肢の絞り込みも容易な問題が多かった。(ウ)のNo.2は昨年同様、リスニングの英文を聞き落としても、設問の英文をよく読めば解けた。	基本的な聞く力が身につけていけば、問題自体は決して難しくない。日頃から教科書の英文、テキストの英文を聞いて耳を鍛えよう。
問2 適語補充	例年記述式の適語補充問題だったが、マークシート化。respect, experienceなどの難しめの単語が問われたが、書かなくてよい分難易度的には簡単になった。	基礎的な単語以外が狙われがちな大問だが、選択式になったことで難易度は下がった。まずは単語の音と意味を押さえていこう。
問3 適語選択	例年同様の適語句選択問題。(ア)はone of the ~ に関係代名詞とbe動詞の時制を組み合わせた出題で、やや難しかった。その他は比較、関係代名詞+受け身、現在完了形と、例年同様中学の後半で学習する単元からの出題が中心となったが、例年並みの難易度だった。	一問一答式の文法問題だが、配点は12点と決して小さくない。特に中2の後半以降の単元からの出題が多いので、重点的にチェックしておこう。
問4 語順整序	例年通り、1語不要語を含んだ語順整序作文問題で、3番目と5番目に来る語を記号で答える形式。(ア)(イ)は基本文レベルの問題で易しかった。(エ)では高校から降りてきた仮定法が出題された。I wish I wereの形が見抜けても、be better playingというあまり見慣れない形がそのあとに続き、やや難しい問題だった。	新指導要領の内容がさっそく反映された。文法問題全体として、今後もこうした傾向は続くと思われる。仮定法、現在完了進行形、原形不定詞など、難しい単元が多いが、頑張って学習しよう。

2022 英語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
大問5 条件作文	例年通り、英文とイラストを見て、空所に入る文を書く英作文問題。今年は何 long dose it take に不定詞を合わせた形の出題だった。条件の中で it と long が使われることが示されていたが、過去形にし忘れるミスや不定詞を見落とすミスが起こりやすかったのは。昨年よりやや難化。	例年、疑問詞を使った疑問文を書く問題が出題されている。基本文の形を頭に入れておくこと、対話の流れを見て、どんな質問がされているのかを推測する練習をすることが大事。
大問6-8 長文	<p>問6 地元の商店街の路上ごみ対策について述べた高校生のスピーチを読んで答える問題。クラウドファンディングで活動の資金を募る、といった内容は現代的で、SDGsに関わる内容もトレンドに沿っている。問題自体は例年通りの形式で、難易度的にも例年並みだったが、文章が半ページ分ほど長くなっており、英文を読むスピードが問われた。</p> <p>問7 図表と対話文の読み取り問題。(ア)は、対話文と図表だけでなく、注記の情報まで考慮に入れる必要があり、スピードと正確性どちらも求められる問題だった。</p> <p>問8 対話文とグラフを読んで答える問題。出題形式、英文のボリュームは昨年と同様。小学校で行う運動イベントをオンライン化する、という内容で、これも時節に沿ったテーマだった。(ア)のグラフ選択問題は、本文中の記述とグラフの表現がそのままでは一致せず、簡単な計算をして答える必要が。</p>	<p>英文をスピーディに読みこなす力が何よりも大事。他県入試等、様々な英文に触れることで処理スピードを高める練習をしよう。</p> <p>先に問いと図表を見てあたりをつけて英文を読む、というやり方では対処しにくい問題になってきた。頭から英文を読みながら、答えを出すのに必要な情報を押さえていこう。</p> <p>長文読解問題全体に言えることだが、現実の社会的な変化・問題が英文に反映されることはよくある。日頃からそうした動向に関心を持っておくことで、長い英文を読む際にも、内容を推測しながらスピーディに読めるようになる。意識しておこう。</p>

2022 数学-①

- ・出題傾向や問題数,出題の形式に大きな変化はなかった。
- ・変更点としては,昨年度まで難易度の高い問題などでは記述で回答するものがあったが,今年からはそれらもマークシートでの回答となった。また,配点が6点の問題が3問あったのが変わった点といえる。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 計算	<p>(ア)~(オ)の5問の計算問題で,問題数は変わらず。</p> <p>変更点は,昨年出題された単項式の乗除計算がなくなったところではあるが,過去に出題された計算問題と同様の問題であった。</p>	<p>計算の出題パターンはほぼ過去問通りの出題となっている。</p> <p>毎年正答率の高い問題であるので,正確に答えを出す練習が必要。特に計算式の中では符号のミスをしやすい減法が多いので,注意。</p>
問2 小問集合	<p>(ア)では連立方程式が出題され,因数分解の問題がなかったのが変更点。</p> <p>(エ)では方程式の文章題,(オ)ではルート of 式の値の出題であった。</p> <p>中1から中3の単元まで幅広く出題されており,典型的で過去の出題されているパターンと似ていた。</p>	<p>(ア)では連立方程式か因数分解か,どちらが出題されても解けるよう計算力をつけておく。</p> <p>2次方程式や変化の割合など,毎年傾向がほとんど変わらないものも確実に解けるよう訓練する。</p> <p>その他の問題も過去に出題されており,かつ全国入試ではよく出題されるオーソドックスな問題なので,様々な基礎的な問題を取り組んでいく。</p>

2022 数学-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問3 証明と資料の活用など	<p>証明問題では昨年に引き続き、今年も合同の証明であった。過去の入試でも、根拠を答えさせる問題が頻出であったが、今年もその傾向があった。</p> <p>(ア)の(ii)では難易度の高い問題が出題されてきたが、今年の入試ではそれほど難しいものは問われなかった。</p> <p>(イ)～(エ)の問題では、例年通り資料の整理や円に関する問題で、手間がかかったり難易度の高かったりする問題が続いた。近年見られた、方程式などの式を答える文章題は出題されなかった。</p>	<p>証明問題は、合同でも相似でも答えられるように練習しておく。</p> <p>資料の活用に関連する問題は、毎年、選択肢の吟味に時間がかかるものであるため、自分自身の目標点を考慮し時間配分に気を付けたい。</p> <p>今年はお題されなかったが、新単元の箱ひげ図も今後出題される可能性はある。</p> <p>図形は難易度の高い問題が出題されやすいが、円周角の定理を使う問題には慣れておくと、証明問題でも対応しやすい。</p>

2022 数学-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 関数	<p>例年通りの関数の問題。</p> <p>(イ)では例年、座標が分数になったり、相似や三平方の定理などを使ったりする問題であったが、今年はシンプルかつ求めやすいレベルとなった。また頻出パターンであった座標間の長さを分ける比を使い、式を導くものは出題されなかった。</p> <p>(ウ)に関しても、例年と比較すると求めやすくなっていた。面積比の問題であったが、例年は図形の性質を使って解く難易度の高いものであったが、今年は素直に座標を求めて面積を求めても答えに至るような問題になっていた。</p>	<p>座標を導くまでの手順がある程度パターン化されている。そのパターンを身につけるため、過去問に触れていく。</p> <p>比や図形的性質を使って座標を求める訓練、座標が分数になっても処理できるような計算力を身に付けていく必要がある。</p>
問5 確率	<p>昨年同様、確率の問題が出題された。例年、問4の関数で出題されてきたような「比」に関する問題が、確率で登場した。さいころの目に従って線分の比を分けるこのタイプの問題は、初年度の追試験で出題されて以来となる。</p> <p>(ア)は答えを導きやすかったため、(イ)を考える時間を確保しやすい問題であった。</p>	<p>単純にパターンを数えるだけでなく、答えを導くために図形的な性質を使ったり、計算処理をしたりする問題を解いておくこと。</p> <p>時間との勝負となることもあるので、時間配分の仕方を身に付けておくこと良い。</p>
問6 空間図形	<p>例年通り、立体の問題。</p> <p>(ア)～(ウ)まで、過去に出題されてきたようなパターンで、過去問に沿った練習問題を積み重ねてきた受験生には、取り組みやすい問題であった。</p>	<p>図形問題を解く上での着眼点を身に付けていく。</p> <p>三平方の定理や相似は使うことが多いので、まずは平面図形での解法から固めていくと良い。</p>

2022 国語-①

- ・大問構成が変化し、問2にあった古文が問4に移動、また問1で出題されていた文法問題が問3の論説文の問題に含まれる形になった。
- ・全体の難易度には大きな変化はなし。問5の記述問題はやや易しくなった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 語彙・文法	漢字、短歌の読み取り。文法問題は問3の論説文の読解に移動となった。漢字は全体として難易度が高く、「煩雑」「罷免」「寸暇」といった馴染みのない熟語や、熟語としての意味と使われる漢字の意味のつながりが直感的に理解しにくい語が狙われた。短歌の問題は昨年より易しく、標準的なものだった。	漢検3級が一つの目安になるが、それ以上のレベルの問題が出題されることも多い。マークシート化しているとはいえ、簡単ではない。コツコツ覚えていこう。
問2 物語文	例年、問2では古文が出題されていたが、今年は小説の読解だった。出典は青谷真未「水野瀬高校放送部の四つの声」。現代の高校生が主人公の作品で、比較的読みやすかった。コミュニケーションへの失敗への恐れ、戸惑い、成長を描いた、現代らしい出典だったが、単純に文章の量が多く、スピーディに解く必要があった。	小説の問題では、登場人物の心情を問う問題が頻出。心情が直接的に記述された箇所がないときは、台詞や身体・表情の描写から考えていこう。
問3 論説文	論説文の読解が問3となった。(イ)(ウ)に文法・四字熟語の問題が入り、問1にあった知識要素が論説文に融合する形になった。出典は小浜逸郎「日本語は哲学する言語である」。とっつきにくい内容ではあるが、言語論としてはよくある議論であり、似たものを読んだことがあれば理解しやすかったのでは。	(オ)(カ)など、本文中のキーワードが、選択肢の中で別の言葉に言い換えられている場合がある。選択肢と本文のキーワードの対応関係を整理しながら吟味しよう。

2022 国語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 古文	<p>例年問2に出題されていた古文が問4に移動した。 出題形式自体はこれまで通りで、難易度的にも大きな変化はない。</p> <p>出典は「十訓抄」で、成就院僧正寛助の一種の出世譚となっている。文脈を終えていれば素直に選択肢を絞り込める問題が多かったが、(ウ)では「あはれ」の現代語訳が理解できているかが問われた。</p>	<p>「あはれ」や「あやし」といった基本的な古今異義語の理解が正答を左右する場合がある。覚えておくべき語は決して多くない。きちんと頭に入れておこう。</p> <p>神奈川県入試は全国的な入試のトレンドに沿っているので、他県入試に触れておくことも大事。</p>
問5 資料の読み取り	<p>会話文と資料の読み取り。テーマはサステナブルファッションで、SDGsに絡んだいかにも今風な問題だった。</p> <p>(イ)の記述問題は、ここ数年、簡単な計算を行ったり、資料から読み取ったことを自力でまとめたりする必要のあるやや難しいものが出題されていたが、今年では会話文中のポイントを二か所書き抜いてまとめることで答えられた。</p>	<p>昨年同様、SDGsを意識した内容が出題された。日頃から社会的な変化の動向を折っておくことで、文章や資料の理解に必要な負荷を下げるができる。</p> <p>図表を読む問題の訓練は、社会の問題演習等でも意識して行っていこう。</p>

2022 社会-①

- ・記述問題がなくなったが、全体として昨年度から難易度に大きな変化はない。
- ・基本的な知識の定着が問われ、複雑な思考や計算を要する問題はなかった。
- ・絵画史料を読み取る問題、という新傾向の問題も出たが、教科書にあるもので、実質的に知識問題だった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 世界地理	<p>メルカトル図を使ったスタンダードな問題。 時差の計算問題は今年も出ず、今後もこの傾向が続く可能性は高い。</p> <p>基礎的な知識が問われる堅実な作りで、2つ以上の知識を組み合わせる問題も多かったが、難易度としては平年並みだった。</p>	<p>まずは世界の諸地域の位置関係と名称、気候、産業といった基本を覚えること。</p> <p>雨温図の問題では、南半球の気候を問うものが頻出。北半球とは逆になると覚えておこう。</p>
問2 日本地理	<p>長野県を中心とした中部地方についての問題。</p> <p>(イ)など、「抑制栽培」といった地理用語を知っていればスムーズに解けるが、知らなくても示された資料を読むことで答えられるような易しい問題が多かった。</p> <p>ただ、全体として処理する情報の量は増えているので、ショートカットのためにも知識を頭に入れておくことは大事。</p>	<p>グラフや表を読む問題では、率と実数を取り違えない、といった基本に気を付けよう。</p> <p>数年前に比べて易しくなっているが、地形図の問題は毎年出ている。地図記号を頭に入れておくこと。</p>

2022 社会-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 近代以前の歴史</p>	<p>仏教史を切り口にした近代以前の歴史についての問題。</p> <p>例年同様、テーマ史的なアプローチだが、問われている知識はあくまで基本的なもの。</p> <p>(オ)は絵画史料を読み取って答える新しい傾向のものだが、中世について述べた選択肢を絞り込めれば、絵を見ずとも答えられた。</p>	<p>例年通り、各時代の出来事の前後関係を押さえることがまず第一。</p> <p>年表を使った流れの整理をしっかりと行うこと。</p>
<p>問4 近代以降の歴史</p>	<p>他の大問同様、基本的な知識を問う問題。</p> <p>歴史問題全般に言えるが、何よりもまず主要な出来事の前後関係を整理して把握しておくことが大事。日頃から意識して学習しよう。</p> <p>(イ)は問3の(オ)と同じ、絵画史料を読み取って答える問題だが、やはり教科書的な知識があれば答えられる問題だった。</p>	<p>近代以前の歴史に比べて、短いスパンでの歴史の流れを追うことになるので、年表の把握はより正確にするよう心がけよう。</p>

2022 社会-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 公民①	<p>米に関するレポートを軸に、公民の経済分野を問う問題。需要と供給といった頻出内容が問われており、やはり基本的な知識をどれだけ押さえられているかが問われた。</p> <p>グラフを見て答える(オ)も、細かい計算は不要で、概算でスピーディに解くことができた。</p>	<p>難易度自体は決して高くないが、レポートやグラフの内容を精読しすぎると時間がなくなってしまう。</p> <p>設問文から読むことで時間を節約することを意識しよう。</p>
問6 公民②	<p>公民の人権、憲法、国際関係分野からの出題。計8種の資料を見ながら答える必要があるため、基礎的な知識の把握に加え、情報処理のスピードが大切。</p> <p>表を見て答える(エ)は、知識だけで答えることもできるが、館単に概算をすることでさらに確実に答えを絞り込むことができた。</p>	<p>全体に言えることだが、社会のグラフや表を見て答える問題の多くは、詳細に計算をせずに概算で答えることができる。</p> <p>必要な作業を見極め、手早く解いていこう。</p>
問7 分野横断型	<p>海上輸送、船舶の安全についてのレポートを軸にした分野横断型の問題で、地歴公民の知識が一般的に問われた。一見難しそうに見えるが、多くの問題は基本知識で答えることができる。</p> <p>(イ)の第四次中東戦争の年代把握はやや馴染みがなかったかもしれない。</p> <p>表を見て答える(ウ)は、知識は不要だが、引き算をある程度正確にする必要があった。</p>	<p>様々な切り口から知識を問われることで、単純な問いでも難しく感じてしまうことはある。</p> <p>落ち着いて、何が問われているのかを把握していこう。</p>

2022 理科-①

- ・例年通り、問1～8の出題で物理、化学、生物、地学の順番。昨年と比べても、問題文や計算量などは同じくらい。
- ・新単元からの出題も。ここ数年頻出の「実験から分かること」や「どんな実験をすれば分かるか」といった思考力を求める問題も。
- ・実験器具の使い方は今年出題されなかった。
- ・例年、1つの問いに幅広い選択肢を設けて難易度を高めていることがあるが、今年は選択肢の数は少なくなった印象。記述問題がなかったのは大きな変更点。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 物理小問	例年、浮力や力、エネルギーなどレベルの高い問題が出題されてきたが、今年はそのままで難易度の高いものは見当たらなかった。(ウ)では①と②の2種類の回路図と、2つのグラフから抵抗値を求める問題であった。社会科の試験でよく見られるような、2つのグラフのうちどちらが回路①のものか判断しなければならなかった。	基本的な知識を身に付けておくこと。 過去の神奈川県入試はもちろん、全国入試でよく出題される基本問題を解き、理解を深めていくこと。
問2 化学小問	(ア)では状態変化における粒子の運動の様子を問うもので、昨年も出題された単元。(イ)は質量保存の法則に関するもので、これも過去に出題されている観点である。(ウ)は化学反応式を完成させる問題。反応式を完成させる問題は過去に何度も出題されているが、今年新しい切り口での出題となった。メタンとプロパンの反応式は、あまり出題されていないものである。	単に用語を覚えるのではなく、それが意味するものやなぜそうなるのか原理もあわせて理解する必要がある。
問3 生物小問	(ア)は細胞分裂の順番を問う問題。定期試験で出るような典型的なものであったが、過去あまり出題されたことのない問題。(イ)は植物の光合成に関する実験の問題。光合成には二酸化炭素が必要であると調べるには、どの実験を比較するか、という思考力を問う問題。例年問4までは小問が中心で、実験に関する思考力は問5以降で出題されるが、今年問3でも問われた。(ウ)は食物繊維の生物量に関するグラフの読み取り。似た問題は過去に出題されている。	今年出題されなかったが、計算処理の多いものや実験結果を比較するものも頻出である。公式はすべて使いこなせるようにし、様々な角度からの練習問題を行っていくとよい。
問4 地学小問	(ア)は乾湿計の問題。過去に出題されたものは、湿度の計算と表の読み取りを絡めたものであったが、今年図や表はなく、知っている知識でいかに解くかがポイントに。使う知識はテキストにある一般的なものであるが、受験勉強の上でもあまり出会わない問題文であった。(イ)は天気図から風向きを予測する問題。過去に台風のある天気図の読み取りなど、これに関する問題は出題されている。(ウ)は地層の典型的な問題。	

2022 理科-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 レンズの実験	レンズの実験の問題。実験の記録から焦点距離を導く必要があったが、読み取りにくいグラフでの出題となったため、情報を整理していく力が必要であった。レンズの問題では典型的な、焦点距離の内側に光源を置いたときの考察が対話文となって出題された。虚像の性質を知っていれば、選択肢も絞りやすいものであった。	各問ではメインとなる実験や観察に関することからの出題となっている。
問6 化学電池のしくみ	イオンになりやすさを実験から考察するもの。今年度から指導要領に盛り込まれた「イオンになりやすさ」と「ダニエル電池」に関する問題である。化学電池の仕組みを理解し、実験結果を予測する問題もあった。基本知識と実験結果から考察する思考力を問うような、例年通りの神奈川県らしい出題となった。	資料を読み取ったり、考察したりする前に基礎知識で答えを導けるものがある。まずは基礎を身につけ、丸暗記ではなく原理をおさえていく必要がある。
問7 消化酵素の実験	消化酵素の含む胃腸薬を使った実験。消化に関する実験はいくつか典型パターンはあるが、今回はあまり見ない観点での実験となった。表が3つにグラフが1つ、合計4つの資料と自分の知識を使って解く問題で、この入試問題の中では難易度の高めなものとなった。実験結果として結論づけたい項目を確認するには何を対照実験とするか、など思考力を問う問題もあった。しかし、選択肢が複雑ではないため、答えを絞りやすかった。	また、実験から得られる考察や、この結果を生み出すためにはどんな実験が必要か、というような思考力が必要な問題が出題されているため、過去問や全国入試問題にも触れて練習していくと良い。
問8 天気	天体分野からの出題。日周運動と年周運動のどちらも問う問題があったが、そこまで難易度の高い問題ではなかった。(エ)では、北極星の高度を問うものであったが、過去に出題された南中高度を問う問題と思考は似ている。基礎的な知識と練習問題の積み重ねで解けるレベルのものが多かった。	初めて見る実験内容での出題となることもあるため、情報を整理する訓練をするためにも制限時間を設けて実験の問題を解く練習をすると良い。